

鹿児島宇宙空間観測所の起工式と 鹿児島県・内之浦町両協力会の成立

下 村 潤 二 郎

1. 起工式について

東京大学鹿児島宇宙空間観測所(略称 KSC)は、わが国の二つ目の観測ロケット飛しょう場として、1962年2月2日、鹿児島県肝付郡内之浦町南方学長坪の同観測所において約200名の来賓参列のもとにその起工式が行なわれた。この起工式は KSC の最初の探訪調査が、1960年10月に行なわれているから、同所の発見後16ヵ月目に当たる。KSC の最初の工事は、鹿児島県の甚大な好意に基づき、230m の幹線道路切り開きと、第2圃地のブルドーザによる整地であって、1961年10月に着工し、同年中にこれは完了している。式場はこの第2圃地の上で行なわれた。

起工式は、東京大学総長主催のもとに13時から16時までの間につきのように行なわれた。

式 次 第

1. 開 式 の 辞
1. 修 験 の 儀
1. 降 神 の 儀
1. 献 饌 の 儀
1. 祝 詞 奏 上
1. 切 麻 の 儀
1. 献 入 の 儀
1. 玉 串 奉 典
1. 撤 饌 の 儀
1. 昇 神 の 儀
1. 総 長 挨拶
1. 生産技術研究所長研究経過報告
1. 施設部長工事経過報告
1. 祝 辞
 - 文 部 大 臣
 - 日 本 学 術 会 議 会 長
 - 鹿 児 島 大 学 長
 - 鹿 児 島 県 知 事
 - 鹿 児 島 県 議 会 議 長
 - 内 之 浦 町 長
1. 閉 式 の 辞
 - 総 長 記 念 植 樹
 - 試 験 ロ ケ ッ ト 初 試 射
 - 祝 賀

神事に関する儀式は内之浦町の高屋神社神宮によってなされ、くわ入れの儀は、東大総長ほか数氏、また玉ぐし奉てんは、つぎのような多数関係者によってなされた。

玉ぐし奉てん者

(東京方面)

茅東京大学総長
吉里文部大臣代理
福井日本学術会議会長代理
藤高東京大学生産技術研究所長
高木東京大学教授
糸川東京大学教授
鶴田東京大学事務局長
植植東京大学施設部長
岩田東京大学経理部長
小牧小牧組取締役社長
下小野田園基建設代表取締役
(鹿児島県関係)
寺園鹿児島県知事
大坪鹿児島県議会議長
福田鹿児島大学長
二階堂衆議院議員
久木元内之浦町長
上林内之浦町議会議長
平瀬鹿児島県市長会会長
北田鹿児島県町村会会長代理
永田鹿児島県市議会議長会会長代理
黒木鹿児島県町村議会議長会会長代理
鷹野鹿児島県経済同友会代表幹事

以下、総長のあいさつに始まり、生研所長と東大施設部長による報告と来賓の祝辞が述べられ、閉式後、東大総長の記念植樹と、小型試験ロケットの初試射が行なわれた。記念植樹されたのは、南国を象徴する植物フェニックスで、また初試射されたロケットは、直径75mmの小型ロケットで発進ボタンは総長が押された。引き続きその場所で祝宴が催され、その間茅総長の発らつたる司会に呼応するごとく列席者来賓多数から祝福と所感を織りまぜたテーブル・スピーチがあった。

KSC は日本のフロリダだという。南国情緒に富み、景色がよいことからそういうのである。しかし大隅半島を深く入ると日本のさいはてという感じがする。町面積の70%余りが国有林野で、人口1万強、景行天皇以来いんしんをきわめたことのない僻遠の地に、新しい科学研究施設を設営するようになったことは、ロケット実験という特殊性がそうさせたのであって不思議ではない必然性が考えられる。

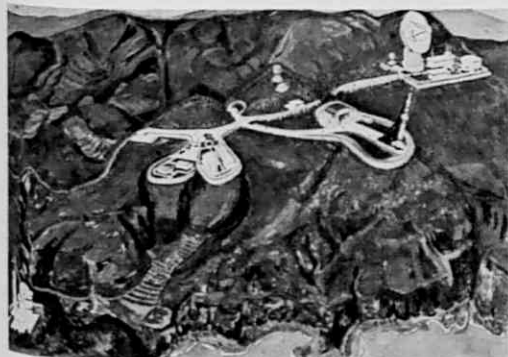
観測所の設営やロケット実験には長尺物や重物が運搬される。他面観測所設置が大隅の観光開発に間接的に寄与することが考えられる。そういう意味もあって、鹿児島県は、KSC の一部土木工事に併行して、高山・内之浦間20km余りの県道の改修といくつかの橋の架け



茅東大総長のくわ入れ

かえを行なった。このような積極的援助は、一般通行者はもちろんであろうが、東大の設備や実験に大きな恩恵を与えた。さて起工式当日は天気にも恵まれ、内之浦町内は、幕・旗・アーチなどによる装飾がなされ、小・中学生による「ロケット」という人文字、漁船の満船飾など大学にはできない企画で全町を挙げて祝福した。また、新聞・テレビなどの報道関係もこれを大きくとりあげ、飛行機の訪問や花たばの空中投下などもあって、起工式場は立体化された趣きがあり、長坪に 3000 名の参観者が集まったのも空前のことであろう。

KSC は、秋田実験場の位置から緯度が 8 度以上も低く、地磁気線分布の緯度においては 20 度に満たない。後者のそれは北半球における現有観測所としても一番赤道に近い緯度にあり、かつ宇宙物理観測上からも有益なデータの求められる地点として期待されている。大隅半島の地形は典型的な断層地形であるため、KSC は海に直面しつつ 230m から 320m の標高をもち、長坪に占める第 1 地区に 5 団地、宮原と戸崎に各 1 団地、合計 7 団地、土地約 18 ha ある。団地と団地、または団地と県道をつなぐ幹線道路は互長約 1.7km あって、このような団地の飛び島の配置もまた他国にない異色の様態である。計画当初、整地・道路・水・電気の 4 点を合言葉として施工をはかり、そのあと建物と設備に移る計画がたてられた。水は谷間の水を上域に誘導し、電力は、遠く高山川発電所の設備拡充をし、岸良から KSC まで 8



KSC 完成予想絵図

km の間に新線を敷いた。七つの団地には、主要建物として、ロケットセンター、コントロールセンター、テレメータセンター、電波センター、計器センター、ロケット格納庫、レーダセンターおよび四つの光学観測点等が設けられることになっている。これらの施設は、1961 年度を第 1 年度とし、ラムダ・ロケット用のために 3 カ年度完成を目指している。

KSC 起工式は、このような建設を両脚に踏まえて举行されたのである。

2. 協力会について

起工式のあと、内之浦町宇宙空間観測協会発会式が、内之浦町庁舎内の議事堂で、また翌 2 月 3 日、鹿児島市内の野村証券ビル内会場で鹿児島県宇宙空間観測協会発会式がそれぞれ行なわれた。

内之浦町協会は、久木元町長と上林房町議会議長が設立発起人となって呼びかけられ、発会式は、別項のような会則を議決し、会長に久木元町長、副会長に上林房町議会議長が就任し、これに対して総長のあいさつ、糸川教授の謝辞があった。

鹿児島県協会は、寺園知事・大坪県議会議長・福田鹿大学長・久木元内之浦町長が設立発起人となり、発会式は、別項のような会則を承認し、会長に寺園知事、副会長に金丸副知事が就任し、これに対して総長のあいさつ、高木教授の謝辞が述べられた。この二つの協会会成立に当たって荒木文部大臣の祝辞（別項）が吉里学術課長によって朗読された。しかも起工式や協会の成立については、これを指導された田代企画調査室長のご好意も忘れられない。

協会はすでに秋田県で設置された前例もあり、ロケット実験には直接に、また平時においても、大学と現地官公署・諸団体との意志疎通機関として必要欠くべからざるものである。実験遂行のためには、大学は実験計画を明らかにし、必要な情報を提供し、各専門機関の機能による協力を得ることが必要である。それは空と海と実験場の保安問題だけについてみても、すべて県や省の出先機関による出動や手配がなければ実験はできないし、漁業関係については漁協の協力がなければできない。借地一つについても国有地から民有地まで関係があるし、ロケットや諸器材の輸送から、現地要員の雇用、班員の宿舎紹介に至るまでの万端の交渉まで、大学としては相談を持ちかけることが多い。そうしてこのような具体的実行の背景となる理解と原動力が、協会という組織でオーソライズされることは、実験成功の半ばが予約されるものであるし、PR の場としても頼もしいことを信ずる。

別項に両協会の会員名簿を掲げる。

(1963 年 4 月 24 日受理)

起工式における東京大学総長のあいさつ

本日ここに関係者各位の御来臨を仰ぎ、東京大学鹿児島宇宙空間観測所の起工式を挙行することとなりましたことは、私の最も喜びとするところであります。

宇宙科学という言葉は、極めて近年に生まれた言葉であります。しかし宇宙の広大さ、神秘さ、そして太古から永遠の未来にわたって存在すべき偉大なる対象は、全く近年に至って科学の対象として直接これを観測するようになりました。

わが国におけるロケットの飛しょうは、昭和30年8月6日、秋田県道川でペンシル・ロケットを以て行なわれたのが始まりであります。続いて昭和32年から33年にかけて世界各国が共同で実施した第3回国際地球観測年にわが国も参加し、ロケットによる上層観測を行なったことが大きな踏み台となり、ロケットの技術は一段と進歩いたしました。ことにこれまで手の届かなかった上層の資料を直接計測することができ、天文学・気象学・地球物理学等に寄与した面は大きなものがあります。国際地球観測年の成果を契機として、各国はロケット観測を継続して行なう趨勢となり、国際学術連合の中に宇宙空間研究委員会、通称 COSPAR なる委員会が設けられ、わが国もその常任理事国となって、今日国際的連係のもとにロケット観測を続けております。

わが国のロケット開発は、これまで本学生産技術研究所が中心となつて行なわれ、極めて小さなペンシル・ロケットから逐次発展し、カッパ6型、8型、9型の安定したロケットを観測に実用化することができ、到達高度も、60 km 程度から350 km に至る各層にわたり、観測種目に応じたロケットを飛しょうせしめるようになりました。これは、わが国が他国に比べて、研究期間の浅いことと、比較的少ない研究費で行なった業績としては、一般に認められているところであります。また国産ロケット及び付属装置が外国より需要されることになったこともこれを証明する一つであるといえます。

わが国は四面海に囲まれているとはいえ、大型ロケットの発射場としてふさわしい条件を備えた場所は、航空路・海路・漁船操業等との折り合いから、なかなか得られませんでした。日本海に面した秋田ロケット実験場ではできない飛しょう実験を捕らなう場所ということで、SE 研究班の担当者によって、北海道から本州・九州に至る太平洋岸の各地が調査され、昨年4月、鹿児島県庁・内之浦町のご同意ご協力を得て、この地が決定されました。大隅半島は、歴史的に古い事蹟や伝説を擁しておりますが、この地に測量機を入れ、発射点・テレメータ点・レーダ点等ここに新鋭の科学的施設が設けられるに至れば、ユニークな世界的なロケット・ステーションとなるのではないかと、秘かに自負している次第であります。

本日、観測所建設のための起工式を挙行することができ、ご列席の皆様と共に、観測所の前途を祝うことができますことは、私の大へん欣快とするところであります。既に起工の跡は入れられたのであります。観測所建設が契機となって、大隅半島が時代の脚光を浴び、健全なる開発を遂げられるよう希望するものであります。

終わりに、本観測所設置につきまして御指導を頂きました文部省および各省連絡協議会並びにこれを受け入れて下さいました鹿児島県および内之浦町その他地元関係の方々ならびに諸官庁の方々の御後援に対して、衷心よりお礼を申し上げる次第であります。

昭和37年2月2日 東京大学総長 茅 誠 司

起工式における内之浦町長の祝辞

東京大学ご企画の鹿児島宇宙空間観測所建設は、予て地元住民の挙げてこれを望んでいたところでありました。本日ここに盛大な起工の式典を挙行せられるに当りまして全住民を代表し、その喜びをお伝えして、祝意を表したいと存する次第であります。

さきに一昨昭和35年の末、大学ご当局におかれてくれが予定地の一つとして、初めて現地踏査をなされるに至りましたが、当初私どもは、陸の孤島とも申すべき僻遠の当地に、その実現は到底信じ得られなかった次第であります。

しかるにその後、純学術研究上の本施設としては、当地が最適地なる旨凡ゆるご検討の結果を拝承するに及びまして、心儀一転願のご指示のもと微力をいたして不行届のなかにも、諸般のご協力を申し上げて参ったのであります。昨年4月正式決定のご通報に接して以来、町民等しくこれが意義の重要性を自覚して、希望に燃え決意を新たにいたして参っている処であります。本日のご盛儀に臨み改めて町民こそお祝を申し上げます。

今や人類文化特に科学の進歩は、宇宙開発の段階に達しその進展の度は、日に新たなものがありますが、世界の先進諸国に伍し、その一翼を、になわれつつある東京大学に對しましては、予て衷心から敬意を表している処でありまして、今日以後この偉大な学術研究の場に、かかる僻遠にありながら何等かの貢献をなすを得ることを、国民の一致としてひそかにまた、誇りとしているのが町民の真情であります。

さらに想をいたしますときに、本町住民は永年に亘る辺鄙の生活に慣れて時流にうとく、戦後漸く意識を昂めつつ徐々に産業文化の進展を見つあるとは申しながら、今尚後進の域を脱し得ないものがあり、今日茲に近代科学の殿堂が建設されることは凡ゆる意味におきまして、町民の覚醒を促すに充分であり同時にまた、今後町民経済に及ぼす影響の少なからぬこと、就中漸に不遜な構想とも存じますが、本施設を中心として当地の観光開発の契機が得られ、延いては、資源に乏しい大隅半島観光事業発展の一助ともなることを期待いたす次第であります。つまれ、本町町民は町政史上長く記念すべきこの意義深い宇宙空間観測所の当地建設を心から歓迎申し上げ、本日のご盛儀には全戸一斉国旗をかかげてその誠を表した次第でありまして、町民の敬意をおくもりいただければ、洵に幸と存する次第であります。

本観測所は、国際級の規模のものに承りますので、これが建設過程には多大のご困難の予想される処でもありますが、県民は勿論隣接市町村各位にも格段のご援助、ご協力を懇請しつつ今後町を挙げて、最大限のご協力を申し上げべく、敢てこれが為の組織態勢として、予て、町内有志等と相図り地元協力会の発会式も本日、後刻開催の運びにいたしている次第であります。

本日茲に満場満ち溢れ欣喜雀躍する町民の意を充分につくし得ませんが、本工事の早期無事竣工を切に祈念致しまして、甚だ簡拙ではありますが、私の祝辞といたします。

昭和37年2月2日

内之浦町長 久木元 廣

鹿児島県宇宙空間観測協力会発会式における文部大臣の祝辞

今日鹿児島県宇宙空間観測協力会の発会式が挙行されるに当たり、ひとことお祝いのことばを申し上げます。

わが国におけるロケット観測は先年世界各国が共同で行なっていた国際地球観測年あたり超高度観測に關していちじし成果をあげたときにはじまるのであります。その後国際学術連合の組織のもとに重要な役割を受けもつにいたったのであります。その研究は東京大学生産技術研究所を中心とし、各大学官庁等の研究機関の協同によって行なわれ、爾もこれに對して年々少なからぬ國費をつぎこみ、着々として研究の向上に力を注いであります。

このたびロケット観測の長足の進歩に伴い、東京大学鹿兒島宇宙空間観測所を設置することと県当局の地大なる御支援を得て、昨日その建設起工式を挙行することができましたことは、まことに御同慶の至りに存じます。

ロケット観測ならびにこれに伴うかすかすの実験は陸上、海上、航空に関する警備をはじめ気象、電波、通信その他水産漁業等多方面にわたって関係が深いばかりでなく、輸送、宿舎、救護等の用務も多く、したがってこの事業を推進して十分な成果をあげるためには、関係各機関団体はもちろひろく県民各位の理解と協力に待たなければならぬと思っております。

この意味からこのたび鹿兒島県宇宙空間観測協力が結成され、本日その発会式が挙行されるに至りましたことは、まことに力強い限りでありまして本観測事業の関係者として皆さまがたのみなみならぬ御熱意と御努力に対し深く敬意を表し、かつ心から感謝する次第であります。

わたくしは本日の式典を心からお祝いいたしますとともに貴会が今後順調に発展して観測事業の推進に協力され、ひいては科学思想の普及と県政の振興とに寄与されることを希望してやみません。

昭和 37 年 2 月 3 日

文部大臣 荒木 萬寿夫

鹿兒島県宇宙空間観測協力学会発会式に おける会長鹿兒島県知事のあいさつ

本日ここに鹿兒島県宇宙空間観測協力学会発会式を挙げるに当り一言御挨拶申し上げます。

始めに連日おつかれのところ御臨席下さった東大総長、文部省関係各位に対し深く感謝申し上げます。

さて東京大学におかれては昨日当県内之浦町において鹿兒島宇宙空間観測所の起工式を盛大にとり行なわれ、いよいよ日本宇宙科学の粋を集めた観測所が建設の第一歩を踏み出したわけでありす。

御承知のとおり東京大学では 1955 年秋田県道川海岸においてロケット実験を開始以来国際地球観測年における世界観測機構の一員として国際的研究への参加及びその後の高層宇宙研究等々の成果を挙げてこられたわけでありすが、ロケット技術の発達日本海沿岸では、その地理的条件が支障をきたす程になり、このたびわが鹿兒島県の太平洋岸内之浦町長坪に大観測所を建設されることとなった様な次第であります。

なおこの間における日本の科学者各位の非凡の頭脳はその発見の時機は相当におそかったとはいえ、米、ソに次ぐ世界第三のロケット技術を世界に喧伝されることとなったわけで日本のため益に有難く今後の一層の御研鑽と御発展を切にお祈り致すわけでありす。

がしかし、このロケット発射というものは、施設が完備し、ロケットが運搬され科学者や実験担当員の方々がお出でになれは出来るわけではありますが、それが順調に発射され観測されるためには、なお直接、間接の諸対策が講じられなければならないと思われるわけでありす。

例えばロケットの着水に伴う海上警備とか、陸上の諸警戒とか、気象状況の把握とか、航空関係への周知とか、電信電話の緊急連絡系統とか、火薬の保存とか、漁業者の方々の話し合いとか、このように諸般に涉って繁雑な要素が数多く介在してくると思われるのであります。

このように観測所という点を中心とした波紋が自然に広がってゆくような円滑さをもって混然融和したときこそ世界に誇るわが国のロケット実験も高い観測技術もせい一杯の効果を表わすものと思われす。

いま、ここにお集まりの諸機関の皆様がそれぞれ御分担いただくものは、大きな仕事になることもあるし、ごく小部分になるものもあるかもしれません。しかしそれは大小に拘らず国際的宇宙開発の一翼を担っている日本の科学陣の大きな成果に連なるものでありますし、また永遠の神秘を秘めた宇宙のヴェールを一枚一枚ぬいでゆくその開発過程の縁の下の力持ちとしてお互が力を合せてゆかねばならない義務とも思うわけでありま

す。そして今後進歩という名のもとに置かれている鹿兒島県がこれを契機として科学教育に一層の厚みを加え、子供等の夢と希望が宇宙高く果しく拡がってゆくであろう期待をも胸躍らせて抱いているような次第でございます。

色々それぞれ御繁忙であり、また機関によっては手不足のところも出てくるかも知存じますが、何卒この世紀の大事業の趣旨を御了解の上よろしく御協力下さいますようお願い致します。会長として一言御挨拶に替えさせていただきます。

昭和 37 年 2 月 3 日

鹿兒島県宇宙空間観測協力学会会長

鹿兒島県知事 寺 園 勝 志

鹿兒島県宇宙空間観測協力学会会則

(名 称)

第 1 条 本会は、鹿兒島県宇宙空間観測協力学会と称する。

(事務所)

第 2 条 本会の事務所を鹿兒島市山下町 68 番地鹿兒島県庁内に置く。

(目 的)

第 3 条 本会は、宇宙物理研究のためのロケット観測及びこれに関連した実験が円滑に行なわれるために、関係諸機関が連絡協調し協力することを目的とする。

(組 織)

第 4 条 本会は、ロケット観測及びこれに関連した実験に関係ある諸官公署、団体、会社等の代表者及び関係職員をもつて組織する。

本会に会長及び副会長を置き、会長には鹿兒島県知事をもって副会長は会長が指名する。

会長は協力学会を代表し会務を総理する。

副会長は、会長事故あるとき、その職務を代理する。

(会 議)

第 5 条 第 3 条の目的を達するため、連絡会議を置き必要のつと会長がこれを招集する。

(幹事会)

第 6 条 本会の円滑な運営を図るため幹事若干名で組織する幹事会を置き、必要のつと、会長がこれを招集する。

幹事は、会員を構成する機関の中から会長が指名する。

(雑 則)

第 7 条 前各条に定めるほか、本会の運営に関し必要な事項は会長がそのつと定める。

鹿兒島県宇宙空間観測協力学会会員名簿

1962—2 月現在

会 長	鹿 兒 島 県 知 事	寺 園 勝 志
副 会 長	鹿 兒 島 県 副 知 事	金 丸 三 郎
会 員	“ 総 務 部 長	福 元 清 輝
“	“ 農 政 部 長	徳 田 正 明
“	“ 水産商工部長	山 口 秀 治
“	“ 林 務 部 長	荒 武 敏 憲
“	“ 土 木 部 長	石 井 興 良
“	“ 企画調査室長	田 代 弘 光
“	“ 教 育 長	栗 川 久 雄
“	鹿 兒 島 県 議 会 議 長	大 坪 静 夫
“	鹿 兒 島 県 議 会 副 議 長	日 高 広 為
“	“ 総務警察委員長	上 園 辰 巳
“	“ 農 林 “	川 原 新 次 郎
“	“ 土 木 “	羽 幸 忠 輔
“	“ 文教衛生 “	平 原 哲 夫
“	“ 水産商工民生 “	佐 井 宗 二
“	鹿 兒 島 県 町 村 会 長	長 多 正 雄
“	“ 市 長 会 長	平 瀬 實 武
“	“ 鹿 兒 島 市 長	永 田 良 吉

会員	鹿児島県内之浦町長	久木元 峻
"	" 内之浦町議会議長	上林房正 信
"	鹿児島大学長	福田得志 夫
"	鹿児島鉄道管理局長	江里口正 夫
"	鹿児島電気通信部長	西 常 八
"	鹿児島地方気象台長	真 島 善 雄
"	内之浦営林署長	豊 田 勇
"	第10管区海上保安本部 警備救難部長	柳 田 修
"	鹿児島海上保安部長	井上英也
"	鹿児島県警察本部長	金堀一男
"	" 警備部長	岩城安綱
"	鹿児島航空保安事務所長	湯原知春
"	山川電波観測所長	石川三郎
"	九州電力鹿児島支店長	桑畑義二
"	日本通運鹿児島主管支店長	福尾好雄
"	日本交通公社鹿児島営業所長	藤沢完之
"	鹿児島県鹿屋病院長	石井泰蔵
"	" 漁連会長	松元明人
"	南日本新聞社	種子田景雄
"	鹿児島新報社	三ツ井卯三男
"	共同通信鹿児島支局	小林憲治
"	時事通信鹿児島支局	福留行則
"	朝日新聞 "	松岡高志
"	毎日新聞 "	尾島春海
"	西日本新聞 "	益田憲吉
"	読売新聞 "	川野順二
"	日本経済新聞 "	立川芳峯
"	熊本日日新聞 "	古賀正士
"	NHK鹿児島放送局	木田武之
"	南日本放送KK	島中季隆

内之浦町宇宙空間観測協会の会則

(名 称)

第1条 本会は、内之浦町宇宙空間観測協会と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所を内之浦町役場内に置く。

(目 的)

第3条 本会は、宇宙物理研究のためのロケット観測及び、これに関連した実験が円滑に行なわれるために、関係諸機関が連絡協議し協力することを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は、ロケット観測及びこれに関連した実験に関係ある諸官公署、団体、会社等の代表者及び関係職員をもって組織する。

本会に会長及び副会長を置き、会長には内之浦町長をもつ

てあて副会長は会長が指名する。会長は協力会を代表し会務を総括する。副会長は、会長の事故あるとき、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 第3条の目的を達するため、連絡会議を置き必要のつど会長がこれを招集する。

(幹事会)

第6条 本会の円滑な運営を図るため幹事若干名で組織する幹事会を置き、必要のつど、会長が招集する。

幹事は、会員を構成する機関の中から会長が指名する。

(雑 則)

第7条 前各条に定めるほか、本会の運営に関し必要な事項は会長がそのつど定める。

内之浦町宇宙空間観測協会会員名簿

1962—2月現在

会 長	内之浦町 長	久木元 峻
会 員	" 助 役	川原誠造
"	" 収 入 役	松山勝美
"	" 教 育 長	佐枝半四郎
"	" 総務課長	又木寛
"	" 土木課長	仁田山辰喜
"	内之浦町議会議長	上林房正信
"	" 副 議 長	乙田良雄
"	" 総務委員長	矢野義弘
"	" 土木委員長	山之口正志
"	" 経済委員長	倉由雄
"	内之浦営林署長	豊田勇
"	県土木内之浦工事課所主任	前田正範
"	内之浦郵便局長	
"	岸 良 "	中原昇
"	高山警察署巡査部長	荒田虎男
"	内之浦町校長会会長	鶴野良徳
"	内之浦町農協組合長	上林房正信
"	内之浦漁協 "	長野袈裟秀
"	内之浦商工会会長	日本常太郎
"	内之浦町観光協会展長	
"	内之浦町消防団長	坂佐弘行
"	内之浦町婦人連絡協議会長	田中キミ
"	" 青年団 "	水口隆
"	宮原振興会代表	長坪清言
"	内之浦町振興会連絡協議会長	内之浦道利
"	九州電力KK電業所主任	中村重利
"	日本通運KK出張所主任	永田貞吉
"	内之浦有線放送所	牧 巳智夫

(総長あいさつ以下原文のまま)